

大学は「憧れの場」でありたい -大学職員を「なりたい職業Best5」にすべし！-

1.タイトルの由来

フィンランドの児童や生徒たちが将来なりたい職業のNo.1は長年学校の先生だそうだ。憧れの職を目指し、切磋琢磨し、自分を磨き、勝ち残り、夢を掴む。そんな先生を見て、子どもたちはさらに憧れる。言わずと知れたことだが、フィンランドの学校教育は世界中が注目し、学んでいる。諸国の中で給与水準が高いというわけではない。「憧れ」が、人材を集めているのである。皆が憧れる職場で、憧れの仕事をする。いい仕事をするに決まっている。

さて、大学職員は子どもたち、あるいは大学生たちがなりたい職業のいったい何位なのだろうか？大学職員達は日々、切磋琢磨し、自分を磨き、夢を実現しているだろうか？自信に満ち溢れた幸せな職業人人生を送っているのだろうか？

あなたは生まれ変わっても大学職員になりますか？自分の子どもに大学職員を薦めますか？

2.略歴

京都生まれ、お寺育ち。中高はバスケ馬鹿。将来住職になる ⇒ 24時間365日いつ法務が入るかわからない ⇒ 「今しかない、遠くへ遠くへ」という強迫観念の青年期。大学は消去法(僧籍取得or好きな大学・夏休みなし、京都or東京)で選択。その後、海外へ(今しかない、遠くへ遠くへ。)帰国後、縁故採用により大学職員に。「仕事は生活の糧を得るため」と割り切って職業人人生スタート。根っからの意識低い系大学生、意識低い系職業人であった。

現在は一転、学ぶことが楽しい、仕事が楽しい。同志社大学大学院博士後期課程在籍(研究テーマ:大学職員のモチベーション・マネジメント)、大学コンソーシアム京都SD研修委員長、大学行政管理学会理事、大学職員「人間ネットワーク」副会長等。いつの日からか、大学職員という職業の特性・強みを活用し、「リア充」な職業人人生を送り始めている。

3.お話のコンテンツ・流れ

- QWL(Quality of Working Life)を考える
- 内発的モチベーションを考える
- 小規模私立大学職員の事例紹介

4.資料

(1)資料

当日使用のパワーポイント、私学経営※の抜き刷り、Betweenの記事を一定期間保存・公開します。

<https://goo.gl/NpvI7n>

※公益社団法人私学経営研究会編「私学経営」499号(2016年9月)pp.22-30 掲載

(2)FSDプロジェクト(学生FD活動)の活動冊子

<http://goo.gl/wvADrE>

村山孝道(京都文教大学)

t-murayama@po.kbu.ac.jp

※お気軽にご連絡ください。